

ASPOS Newsletter

政治社会学会（ASPOS）会報



No. 2, (2013.6.25)

政治社会学会 (ASPOS) 第 4 回総会及び研究大会

2013年11月16日(土)・17日(日) 千里金蘭大学於
「公募セッションにおける研究報告の募集」

2013 年度企画委員長 三石博行
(千里金蘭大学・教授)

来る 11 月 16 日(土)～11 月 17 日(日) の 2 日間にわたり、政治社会学会(ASPOS)第 4 回総会及び研究大会が大阪にあります千里金蘭大学にて開催される運びとなりました。本年度は、これまで政治社会学会にて行われてきた「21 世紀の政策学の方法論(プログラム科学や設計科学)と実践的検証」に関する研究の蓄積をふまえ、文理融合型政策学を具体的な社会課題の中で「実践的な政策提案型研究活動」へと展開するために、大会テーマを「文理融合と社会デザイン」と決定しました。また、研究大会では 2 つの基調講演とともに 5 つの公募セッション(「社会デザインと政策実践」、「社会デザインと民主主義」、「教育と政治社会」、「生態環境と政治社会」、「自由論題セッション～若手研究者の積極的な研究発表を期待する」)を設置いたしました。特に今年は若手の研究者の参加機会を増やすために、「自由論題」セッションを設けたほか、ポスターセッションも設置いたしました。研究発表希望の皆様には、以下の企画課題の趣旨をご理解いただき、下に掲載されている募集要項に従いご応募いただきたく存じます。なお、それぞれの企画において御担当下さっております諸先生方々のご尽力に、改めて感謝申し上げます。

【各セッション企画の概要】

1. 「社会デザインと政策実践」セッション

セッション責任者：荒木義修

昨年の学会セッション「プログラム科学とは何か」で設計科学についての基礎理論が議論された。文理融合はもちろんのこと、個別科学の垣根を超えて、問題解決に必要なあらゆる「科学知」「専門知」「生活知」などの導入が求められている。今年度は、政策、デザイン、プログラムなどの概念を吟味しながら、実践的な事例研究を通じて、その理論的考察をさらに深めて行きたい。

2. 「社会デザインと民主主義」セッション

セッション責任者：伊藤公雄

20世紀後半以後、近代民主主義を支える基本的制度であった代議制民主主義の「ゆらぎ」や「ほころび」が、さまざまな形で顕在化してきた。たとえば、今年2月に行われたイタリアの総選挙を見てみよう。かつて9割を超える投票率（法律により投票が義務づけられている）を誇っていたこの国が、今や投票率75%（下院）とその割合を大きく減らし、有権者の「政治」への「しらけぶり」がいっそう明らかになったのである。こうした傾向は、北欧を除く経済先進国では共通している。大統領選挙のある年で6割程度、他の中間選挙は4割程度と投票率の低いアメリカ合衆国はもとより、独英仏もそれぞれ5割台後半から7割ぎりぎり程度で、日本（昨年の総選挙は戦後最低で59・32%）とあまり変わらない状況である。

他方で、ベルルスコーニ、サルコジ、ブッシュ・ジュニアから小泉純一郎まで、政党の力ではなく個人の人気による集票が選挙戦の大きな要因になっているのも最近の世界の政治の特徴である（支持者の利害調整やイデオロギーによって支持を生み出して来た政党が、こうした機能を喪失し、メディアを通じた「政党トップ」の人気投票＝イタリアの政治学者カリーゼのいう「パーソナル政党」化現象が深化しているといってもいいだろう）。

背景には、個人人気をおおるメディア政治化といった事情とともに、それまで経済をコントロールし、再配分の力を発揮することで統治を進めてきた各国政府が、グローバル化した国際企業の力によって支配されつつあるということもあるだろう。今や、各国政府は、自国民には緊縮財政で負担を押し付け、他方では、（国民的利益に必ずしもつながらない）グローバルな富者には過剰な保護を与える（『大きすぎてつぶせない』と叫びつつ）ことが「当たり前」になっているようにさえ見える。産業構造の変化、労働形態の変容、経済のグローバル化や金融資本主義化の一方で、メディア政治やネット選挙の登場といった新たな変化のなかで、デモクラシーをもう一度やり直すための社会デザインが求められている。

3. 「教育と政治社会」セッション

セッション責任者：石生義人

教育は百年の計と言われる。社会が大きな変革を迎える時期には必ず教育制度や教育政策が問われる。翻ってみれば封建社会から近代国家への過渡期に国民教育制度は生まれた。明治の国民国家の形成、近代化政策を推進出来たのは、それ以前の江戸時代の教育制度に大きく負っている。それが無ければ明治維新や近代化政策も存在しなかったであろう。また戦前の天皇制議会主義社会から戦後の民主権国家への移行期に、民主主義教育が形成された。そして、今、我々が教育制度や教育政策を見直そうとしていることは、ある時代が終息し、新しい時代が生まれようとしているのだと予測できる。この新しい時代と社会に最も適した人材の育成を社会は教育改革の名のもとに実行しようとしている。

科学技術の著しい発展、地球温暖化問題の発生、グローバル化の急速な進展によって、日本の政治社会や市民生活は、これまで経験したことのない事態に直面し、さまざまな問題解決を迫られている。その意味で、教育はこれらの新しい社会や生活環境に必要とされる政策、制度や内容を求められている。

そこで「教育と政治社会」セッションでは、成熟した民主主義社会への形成過程で具体的に問われる様々な課題について議論をする。例えば、少子高齢化問題、教育政策、教育問題（いじめや高等教育問題）、医療政策、エネルギー政策、安全管理や危機管理政策、過疎化対策、地域経済活性化対策、異文化・異世代共生社会構築の課題解決で問われる「教育制度」や「教育政策」を取り上げる必要があるであろう。

4. 「生態環境と政治社会」セッション

セッション責任者：佐藤洋一郎

20世紀後半、地球温暖化や生態環境問題を解決するために文理融合型の政策提案や実践が課題となった。この政治社会学会は設立当初から生態環境保全のための政策実現を課題に挙げて、研究活動を展開してきた。2010年11月の政治社会学会設立記念研究大会ではセッション「理系と文系の研究者の協働による学際研究を目指してー地球研オアシスプロジェクトにおけるパイロット的事例」で「総合科学としての地球環境学」と題する報告があった。

「3.11」の福島原発事故の半年後に開催された第二回政治社会学会研究大会は、東日本大震災を受けて災害復旧や今後の減災への議論を深めるために関連する学会が連携し設立した学会連携・震災対応プロジェクトと連携して研究大会が企画された。ここでは、特別講演（総括）（「パラダイム・シフトーグローバル市民社会と新しい公共を目指してー」）、二つのセッション（「東日本大震災と日本経済・地域経済・政策決定」と「福島原発事故を考える：広島・長崎・チェルノブイリの経験から」）、二つの共通論題（「地球環境コンソーシアム構想：『国際社会の知』の形成に向けて」と「自然科学と社会科学における歴史的アプローチの異同」）と大会の5つのプログラムを生態環境と政治社会の関係について考える課題が占めた。つまり、東日本大震災・福島原発事故に関する生態環境と政治社会のテーマで第2回研究大会は行われたと言える。

前回、第三回目の研究大会では「生態環境と政治社会」の課題は、二つのセッション「自然科学と社会科学の歴史的アプローチの異同：パートⅡ」と「福島原発事故調査をめぐる自然科

学と社会科学」、そして北澤宏一先生の基調講演「福島原発事故に学ぶーこれからの日本のエネルギーと科学技術ー」が生態環境と政治社会のテーマに即して企画された。

今回、第四回研究大会は、これまでの政治社会学会が推し進めてきた「生態環境と政治社会」のテーマを継承しさらに発展させたい。つまり、多岐にわたるステークホルダーが参加する持続可能な生態環境のあり方をめぐる議論を高め、かつ合意事項を着実に実現できる政治社会制度や政策に関する議論が必要である。それらの議論の結果を地域社会での政策実践、さらにこれからの資源、エネルギー、食料、農業問題に関する具体的な政策提案や政策の正当性の検証作業として展開できないかと考えている。

5. 「自由論題セッション～若手研究者の積極的な研究発表を期待する」セッション

セッション責任者：新川達郎

政治社会学会では、2012年度大会以来会員公募を行うセッションを設けてきました。2013年度は、さらに大学院生や若手研究者の方々にも広く応募をいただきたく自由論題セッションとしました。どうか奮ってご応募下さい。

【募集要項】

1. 「社会デザインと政策実践」セッションにおける研究報告の募集

企画担当：荒木義修（武蔵野大学）

今回の政治社会学会の研究大会では、「社会デザインと政策実践」というセッションを設けることになりました。つきましては、発表を希望される会員は、ご応募をいただければ幸甚です。会員や多くの研究者の方々に広く門戸を開き、活発な議論が行われることを期待しております。応募要領は、以下の通りですので、奮ってご応募ください。

1 報告資格

本学会会員であること。ただし非会員であっても、応募時に入会申込書を提出した場合には報告を認めます。

2 報告テーマ

本セッションの企画趣旨に沿った内容で、未発表のものとしします。

3 報告時間・方法

- (1) 口頭発表者は1報告あたり、報告30分とします。ただし報告本数を考慮して、報告時間の変更を行う場合があります。
- (2) ポスターセッションは11月16日と17日の昼食の時間帯に専用の教室にて行います。

4 口頭発表及びポスター発表の希望について

報告応募への採否、報告の時間帯は、企画委員会で決定します。ただし、口頭発表の希望者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合があります。悪しからずご了承賜りますようお願い申し上げます。

5 応募申請の方法と内容

応募にあたっては、下記6の応募先に、(1) および(2)の内容を記載したWORDまたはテキスト文書を添付した電子メールにて、送付してください。

(1) 応募文書への記載内容

- ① 報告タイトル
- ② 報告者の氏名、所属機関・職名、住所、電話番号、電子メールアドレス
- ③ 報告のキーワード(3個以上5個以内)
- ④ 報告の要旨(600字以上1000字以内、図表も文字数内に換算してください)
- ⑤ 報告時に必要とするプロジェクター等の機器(ただし開催校の準備の都合によりご希望にそえない場合があります)
- ⑥ 使用言語(英語または日本語のいずれかを選択)

(2) 報告希望を以下の三つから選んでください。

- ① 口頭発表
- ② ポスター発表
- ③ 口頭及びポスター発表のどちらでもよい

6 応募書類の送付先

電子メールアドレス：qq392g3x9@cup.ocn.ne.jp

件名には必ず、【社会デザインと政策実践】と最初に明記してください。応募者には、受領確認のメールをお送りします。7月20日までに受領確認メールが届かない場合には、同日までに上記の電子メールアドレスまで、ご連絡ください。

7 応募の締め切りと採否の決定の日時

応募の締め切りは、2013年7月20日23時59分59秒までといたします。

採否の決定は2013年8月17日までにお知らせいたします。

8 「社会デザインと政策実践」のセッションの開催日時(予定)

本セッションの開催日時は、2013年11月16日9時10分から11時40分を予定しておりますが、研究会のプログラム編成上の理由で変更の可能性があります。後日、確定し次第、ご連絡を申し上げますのでご注意ください。

9 その他

ご不明の点は、下記の連絡先までお問い合わせください。

企画担当先：

荒木 義修(あらき よしのぶ)

住所 〒135-8151 東京都江東区有明3-3-3 武蔵野大学政治経済学部

電話 03-5530-7485 ファックス:03-5530-3822(共用)

電子メールアドレス qq392g3x9@cup.ocn.ne.jp

2. 「社会デザインと民主主義」セッションにおける研究報告の募集

企画担当：伊藤公雄（京都大学）

今回の政治社会学会の研究大会では、「社会デザインと民主主義」のセッションを設けることにいたしました。発表を希望される会員は、ご応募をいただければ幸いに存じます。会員や多くの研究者の方々に広く門戸を開き、活発な議論が行われることを期待しております。募集要領は、以下の通りですので、ふるってご応募ください。

1 報告資格

本学会会員であること。ただし非会員であっても、応募時に入会申込書を提出した場合には、報告資格を認めます。

2 報告テーマ

本学会の趣旨に沿った内容で、未発表のものとしします。なお、企画委員会としましては政治社会学会が目指す政策提言型の研究テーマによる応募を期待いたしております。

3 報告時間・方法

- (1) 口頭発表者は1報告あたり、報告30分、質疑応答10分とします。ただし報告本数を考慮して、報告時間の変更を行う場合があります。
- (2) ポスターセッションは11月16日と17日の昼食の時間帯にポスターセッション用の教室で行う。

4 口頭発表及びポスター発表の希望について

報告応募への採否、報告の時間帯は、企画委員会で決定します。報告希望を以下の三つから選んでください

- ① 口頭発表
- ② ポスター発表
- ③ 口頭及びポスター発表のどちらでもよい

(但し、口頭発表者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合がありますので、ご了承ください。)

5 応募申請の方法と内容

- (1) 応募にあたっては、下記6の応募先に、(2)の内容を記載したWORDまたはテキスト文書を添付した電子メールにて、送付してください。
- (2) 応募文書への記載内容
 - ① 報告タイトル、報告者の氏名、所属機関・職名、住所、電話番号、電子メールアドレス
 - ② 報告のキーワード（3個以上5個以内）
 - ③ 報告の要旨（600字以上1000字以内、図表も文字数内に換算してください）
 - ④ 報告時に必要とするプロジェクター等の機器（ただし開催校の準備の都合により、ご希望にそえない場合があります）
 - ⑤ 使用言語（英語または日本語のいずれかを選択）
- (3) 報告希望

報告希望を以下の三つから選んでください。

「①口頭発表 ②ポスター発表 ③口頭及びポスター発表のどちらでもよい」

(但し、口頭発表者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合がありますので、ご了承ください。)

6 応募書類の送付先

電子メールアドレス： itoida@aol.com

件名には必ず、【社会デザインと民主主義】と最初に明記してください。

(応募者には、受領確認のメールをお送りします。7月20日までに受領確認メールが届かない場合には、同日までに再送をお願いします。また併せて、企画担当の電子メールアドレス(itoida@aol.com)まで、ご連絡ください。)

7 応募の締め切りと採否の決定の日時

応募の締め切りは、2013年7月20日23時59分59秒までといたします。

採否の決定は2013年8月17日までにお知らせいたします。

8 「社会デザインと民主主義」のセッションの開催日時(予定)

本セッションの開催日時は、2013年11月16日16時45分から19時15分を予定しておりますが、研究会のプログラム編成上の理由で変更の可能性があります。後日、確定し次第、ご連絡を申し上げますのでご注意ください。

9 その他

ご不明の点は、下記、本企画担当の連絡先までお問い合わせください。

企画担当連絡先：

伊藤公雄(いとう きみお)

住所 〒 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科・文学部 社会学教室

電話 ファックス 075-791-9273

電子メールアドレス itoida@aol.com

3. 「教育と政治社会」セッションにおける研究報告の募集

企画担当：石生義人(国際基督教大学)

今回の政治社会学会の研究大会では、「教育と政治社会」のセッションを設けることにいたしました。発表を希望される会員は、ご応募をいただければ幸いに存じます。会員や多くの研究者の方々に広く門戸を開き、活発な議論が行われることを期待しております。募集要領は、以下の通りですので、ふるってご応募ください。

1 報告資格

本学会会員であること。ただし非会員であっても、応募時に入会申込書を提出した場合には、報告資格を認めます。

2 報告テーマ

本学会の趣旨に沿った内容で、未発表のものとしします。なお、企画委員会としましては「教育と政治社会」の関係を取り扱う研究テーマによる応募を期待いたしております。

3 報告時間・方法

- (1) 口頭発表者は1報告あたり、報告30分、質疑応答10分とします。ただし報告本数を考慮して、報告時間の変更を行う場合があります。
- (2) ポスターセッションは11月16日と17日の昼食の時間帯にポスターセッション用の教室で行う。

4 口頭発表及びポスター発表の希望について

報告応募への採否、報告の時間帯は、企画委員会で決定します。

報告希望を以下の三つから選んでください。

- ① 口頭発表
- ② ポスター発表
- ③ 口頭及びポスター発表のどちらでもよい

(但し、口頭発表希望者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合もありますので、ご了承ください。)

5 応募申請の方法と内容

- (1) 応募にあたっては、下記6の応募先に、(2)の内容を記載したWORDまたはテキスト文書を添付した電子メールにて、送付してください。
- (2) 応募文書への記載内容
 - ① 報告タイトル
 - ② 報告者の氏名、所属機関・職名、住所、電話番号、電子メールアドレス
 - ③ 報告のキーワード(3個以上5個以内)
 - ④ 報告の要旨(600字以上1000字以内、図表も文字数内に換算してください)
 - ⑤ 報告時に必要とするプロジェクター等の機器(ただし開催校の準備の都合により、ご希望にそえない場合があります)
 - ⑥ 使用言語(英語または日本語のいずれかを選択)

(3) 報告希望

報告希望を以下の三つから選んでください

「①口頭発表 ②ポスター発表 ③口頭及びポスター発表のどちらでもよい」

(但し、口頭発表者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合もありますので、ご了承ください。)

6 応募書類の送付先

電子メールアドレス：ishio@icu.ac.jp

件名には必ず、【教育と政治社会】と最初に明記してください。応募者には、受領確認のメールをお送りします。7月20日までに受領確認メールが届かない場合には、同日までに再送をお願いします。また併せて、企画担当の電子メールアドレス(ishio@icu.ac.jp)まで、ご連絡ください。

7 応募の締め切りと採否の決定の日時

応募の締め切りは、2013年7月20日23時59分59秒までといたします。

採否の決定は2013年8月17日までにお知らせいたします。

8 その他

ご不明の点は、下記、本企画担当の連絡先までお問い合わせください。

企画担当連絡先：

石生義人(いしお よしと)

住所 〒 東京都三鷹市大沢 3-10-2 国際基督教大学 内
電話 ファックス 0422-33-3228
電子メールアドレス ishio@icu.ac.jp

4. 「生態環境と政治社会」セッションにおける研究報告の募集

企画担当 佐藤 洋一郎

今回の政治社会学会の研究大会では、「生態環境と政治社会」セッションを設けることにいたしました。発表を希望される会員は、ご応募をいただければ幸いに存じます。会員や多くの研究者の方々に広く門戸を開き、活発な議論が行われることを期待しております。募集要領は、以下の通りですので、ふるってご応募ください。

1 報告資格

本学会会員であること。ただし非会員であっても、応募時に入会申込書を提出した場合には、報告資格を認めます。

2 報告テーマ

本学会の趣旨に沿った内容で、未発表のものとしします。なお、企画委員会としましては政治社会学会が目指す政策提言型の研究テーマによる応募を期待いたしております。

3 報告時間・方法

- (1) 口頭発表者は1報告あたり、報告30分、質疑応答10分とします。ただし報告本数を考慮して、報告時間の変更を行う場合があります。
- (2) ポスターセッションは11月16日と17日の昼食の時間帯にポスターセッション用の教室で行う。

4 口頭発表及びポスター発表の希望について

報告応募への採否、報告の時間帯は、企画委員会で決定します。

報告希望を以下の三つから選んでください。

- ① 口頭発表
- ② ポスター発表
- ③ 口頭及びポスター発表のどちらでもよい

(但し、口頭発表者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合がありますので、ご了承ください。)

5 応募申請の方法と内容

- (1) 応募にあたっては、下記6の応募先に、(2)の内容を記載したWORDまたはテキスト文書を添付した電子メールにて、送付してください。
- (2) 応募文書への記載内容
 - ① 報告タイトル
 - ② 報告者の氏名、所属機関・職名、住所、電話番号、電子メールアドレス
 - ③ 報告のキーワード(3個以上5個以内)
 - ④ 報告の要旨(600字以上1000字以内、図表も文字数内に換算してください)

- ⑤ 報告時に必要とするプロジェクター等の機器（ただし開催校の準備の都合により、ご希望にそえない場合があります）
- ⑥ 使用言語（英語または日本語のいずれかを選択）

(3) 報告希望

報告希望を以下の三つから選んでください。

「①口頭発表 ②ポスター発表 ③口頭及びポスター発表のどちらでもよい」

(但し、口頭発表者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合がありますので、ご了承ください。)

6 応募書類の送付先

電子メールアドレス：sato@chikyu.ac.jp（事務担当 masaoka@chikyu.ac.jp に同報下さい）。件名には必ず、「生態環境と政治社会」セッションと最初に明記してください。

応募者には、受領確認のメールをお送りします。7月23日までに受領確認メールが届かない場合には、同日までに再送をお願いします。また併せて、事務担当の電子メールアドレス masaoka@chikyu.ac.jp まで、ご連絡ください。）

7 応募の締め切りと採否の決定の日時

応募の締め切りは、2013年7月20日までといたします。

採否の決定は2013年8月17日までにお知らせいたします。

8 「生態環境と政治社会」セッションの開催日時（予定）

本セッションの開催日時は、2013年11月17日14時45分から17時を予定しておりますが、研究会のプログラム編成上の理由で変更の可能性があります。後日、確定し次第、ご連絡を申し上げますのでご留意ください。

9 その他

ご不明の点は、下記、本企画担当の連絡先までお問い合わせください。

企画担当連絡先：

佐藤洋一郎（さとうよういちろう）

603-8047 京都市北区上賀茂本山 457-4 総合地球環境学研究所

電話：075-707-2383 ファックス：075-707-2510

電子メール：sato@chikyu.ac.jp

5. 「自由論題セッション～若手研究者の積極的な研究発表を期待する」研究報告の募集

自由論題セッション責任者 新川達郎（同志社大学）

政治社会学会では、2012年度以来、会員公募を行うセッションを設けることにいたしました。2013年度は、自由論題として公募いたしますので、発表を希望される会員は、ご応募をいただければ幸いに存じます。会員や多くの研究者の方々に広く門戸を開き、活発な議論が行われることを期待しております。特に、大学院生や若手の研究者の方々に広く応募をいただきたいと思っています。募集要領は、以下の通りですので、ふるってご応募ください。

1 報告応募資格

本学会会員であること。ただし非会員であっても、応募時に入会申込書を提出した場合には、報告応募資格を認めます。

2 報告テーマ

本学会の趣旨に沿った内容で、未発表のものとしします。なお、企画委員会としましては政治社会学会が目指す政策提言型の研究テーマによる応募を期待いたしております。

3 報告時間・方法

- (1) 口頭発表者は1報告あたり、報告30分、質疑応答10分とします。ただし報告本数を考慮して、報告時間の変更を行う場合があります。
- (2) ポスターセッションは11月16日と17日の昼食の時間帯にポスターセッション用の教室で行います。

4 口頭発表及びポスター発表の希望について

報告応募への採否、報告の時間帯は、企画委員会で決定します。

報告希望を以下の三つから選んでください。

- ① 口頭発表
- ② ポスター発表
- ③ 口頭及びポスター発表のどちらでもよい

(但し、口頭発表者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合がありますので、ご了承ください。)

5 応募申請の方法と内容

- (1) 応募にあたっては、下記6の応募先に、(2)の内容を記載したWORDまたはテキスト文書を添付した電子メールにて、送付してください。
- (2) 応募文書への記載内容
 - ① 報告タイトル
 - ② 報告者の氏名、所属機関・職名、住所、電話番号、電子メールアドレス
 - ③ 報告のキーワード(3個以上5個以内)
 - ④ 報告の要旨(600字以上1000字以内、図表も文字数内に換算してください)
 - ⑤ 報告時に必要とするプロジェクター等の機器(ただし開催校の準備の都合により、ご希望にそえない場合があります)
 - ⑥ 使用言語(英語または日本語のいずれかを選択)

(3) 報告希望

報告希望を以下の三つから選んでください

「①口頭発表 ②ポスター発表 ③口頭及びポスター発表のどちらでもよい」

(但し、口頭発表者が多い場合には、ポスター発表をお願いする場合がありますので、ご了承ください。)

6 応募書類の送付先

電子メールアドレス：tniikawa@mail.doshisha.ac.jp

件名には必ず、【自由論題セッション】と最初に明記してください。

(応募者には、受領確認のメールをお送りします。7月20日までに受領確認メールが届かない場合には、同日までに再送をお願いします。また併せて、企画担当の電子メールアドレス(tniikawa@mail.doshisha.ac.jp)まで、ご連絡ください。)

7 応募の締め切りと採否の決定の日時

応募の締め切りは、2013年7月20日23時59分59秒までといたします。

採否の決定は2013年8月17日までにお知らせいたします。

8 「自由論題セッション」セッションの開催日時（予定）

本セッションの開催日時は、2013年11月17日9時00分から11時30分を予定しておりますが、研究会のプログラム編成上の理由で変更の可能性があります。後日、確定し次第、ご連絡を申し上げますのでご注意ください。

9 その他

ご不明の点は、下記、本企画担当の連絡先までお問い合わせください。

企画担当連絡先：

新川達郎（にいかわたつろう）

〒602-8580 京都市上京区今出川烏丸東入ル 同志社大学総合政策科学研究科内

電話 075-251-3874 ファックス 075-251-3094

電子メール tiiikawa@mail.doshisha.ac.jp

編集後記

第二号のニューズレターの発刊となりました。学会の厳しい財政状況下のため電子メールのみでの配信となっておりますこと、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお今回のニューズレターは今秋開催予定の総会及び研究会の応募要項が主な内容になっております。今号の発刊に際しましては、三石先生のはじめとする各パネルの責任者及び関係者の方々には色々ご協力を頂きました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。これからも改善を重ねより良き会報にしていく所存です。皆様からのご意見お持ちしております。（酒井英一 広報委員長）

ASPOS Newsletter [政治社会学会 (ASPOS) 会報]

No. 2 (2012年6月25日発行)

発行人：原田博夫（理事長）

編集人：酒井英一（広報委員長）

E-mail: sakaihk@kansaidai.ac.jp